

国内外来種 対策急げ



記者

ノート

writer's note

九州各地から多くのヤマメ釣り客が訪れる椎葉村不土野の渓流で異変が起きている。この川にはいなくなつたはずのイワナが10年以上前からすみ着き、上流から下流へ少しずつ生息域を拡大。ヤマメが豊富に育つ生態系を脅かし始めている。

侵入した原因は「一部の釣り客が稚魚や卵をひそかに放流した」というのが地元関係者の一致した見方。渓流沿いは釣り客向けの民宿が多く「ヤマメが減れば観光への打撃が大き」と不安が広がる。もし、イワナ釣りを楽しむための密放流だとして、身勝手というほかない。

本州以北が主な生息地のイワナはブラックバスなど海外由来の外来種と違い、国内の別の地域から移入した国内由来外来種に分類。ただ、海

日向支局長 小谷 実

外由来は外来生物法で移動が規制されるのに対し、国内由来は各自自治体に対策が任されているのが現状だ。

椎葉村漁協はイワナの持ち込み・放流禁止の看板を設置。釣り客に依頼して駆除するなど独自の対策に乗り出している。しかし、険しい渓流のため駆除を担う人材が不足している上に「予算の制限もあり、村単独の対策は難しい」と頭を抱える。

外来種問題に詳しい宮崎大農学部
の岩槻幸雄教授は「国内外来種の持ち込みは野放しの状態。一定の規制をかけないと生態系への被害はさらに拡大する」と指摘。各地域の固有の生態系を守るため行政や漁協、住民が問題意識を共有し、啓発や侵入防止など対策を急ぐ必要がある。